

平成23年度 第5次鯖江市総合計画推進にかかる施策方針

～教育委員会～

第5次鯖江市総合計画の着実な推進を目的として、平成23年5月に策定した施策方針の取組結果について、次のとおり報告します。

平成24年3月

教育委員会事務部長 酒井 誠

1 総括

- 1 子どもたちが、安全に安心して学び活動できる教育環境の整備に努め、豊小学校の校舎改築工事（第1期）や立待小学校のグランド改修を予定どおり完了しました。併せて今後も小中学校の耐震補強工事を進めるために、鯖江東、立待、北中山小学校の耐震補強計画、実施設計を策定し、補正予算で工事費を確保しました。また、社会教育施設やスポーツ施設なども併せて、早期の維持補修や適切な管理に努め、施設の長寿化に努めました。
- 2 食育を基盤として、確かな学力・豊かな心・たくましい体（知・徳・体）を育む学校教育の推進に努めました。また、地域との連携による学校給食畑の活用の推進に努めるとともに、「産業を体験し理解を深める学習事業」や「産業教育支援事業」に取組み、鯖江市の産業や文化を理解し、体験をとおして職業観や勤労観を育てる教育活動の推進に努めました。
- 3 幼児期における子どもたちが、健やかに育ち元気で就学していくために、園での遊びや家庭との連携をとおして、基本的な生活習慣の定着や社会性道徳性、体力増進に努めるとともに、小学校への円滑な移行を図るために小学校との交流事業を充実し、地域に開かれた幼稚園づくりを推進しました。また、「ゆたかこども園」については、市内初の認定こども園として幼保一体化に取組み、園開放事業や子育て支援事業をとおして、地域の方々可愛されるこども園として適切な管理運営に努めました。
- 4 地域で大人と子どもが集いふれあう機会を持つため、地域の方々为主体的に企画・運営する実行委員会方式により「公民館合宿通学事業」を全10地区で実施し、地域の教育力の向上に努めました。また、家族のふれあう機会を推進するため家族ふれあい協賛店舗を増やし、家庭の教育力の向上に努めました。さらに、地域の人材を発掘し活用する生涯学習人材バンクの登録を推奨し、地域の生涯学習の推進に努めました。
- 5 平成20年度から調査を実施してきた「今北山・磯部・弁財天古墳群」で、平成23年度の発掘調査において、北陸最古級で県内初の「高地性環壕」が発見されました。本年度は、まなべの館において「発掘速報展」を開催しましたが、今後も、継続的に市内の貴重な歴史的・文化的な資産を幅広く調査し、保存・保護の処置を講じて後世に引き継いでいく取り組みを実施してまいります。また、より多くの方に「登録博物館まなべの館」を知っていただくための企画展を5回開催したほか、共催展や創造空間事業についても充実を図り、多くの方に来館いただきました。また、「まなべDEワクワク!!アートフェスタ」や鯖江市美術展での「気がるにあーと展」の開催、「子ども文楽交流」の実施など、子どもたちが直接、文化芸術に触れる機会の提供に努めました。
- 6 幼児から高齢者まで、年齢に即応したニュースポーツの普及・促進について、目標数値を上回る一定の成果が見られ、今後の生涯スポーツ推進の大きな弾みとなりました。また今年度、「鯖江市スポーツ振興計画」を改訂し、今後の市民各年齢層のスポーツニーズに対応できる本市のスポーツ振興指針を示しました。

- 7 市民の学習活動や日常生活を豊かにする身近な生涯学習施設として、市民のニーズに的確に対応した資料の蓄積を行い、市民に提供し、幼児から高齢者まで豊かな心を育もうとする市民を支援しました。また、今年度は「学校図書館支援センター」を文化の館内に設置し、各種事業を実施することにより子どもの読書活動支援を推進しました。
- 8 勤労青少年ホームが若者に親しまれる施設となるように、ニーズに応じた講座の開講に努めました。また、利用対象者の枠を緩和し、青年以外の利用拡大を図りました。
- 9 高年大学のこれまで積み重ねてきた実績を活かしながらより充実した事業内容への転換を図るため、健康長寿と社会貢献（社会参加）を2本柱とし、健康で充実した生活の支援と大学で培った能力を活かした地域などへの社会貢献活動の支援を行った結果、クラブ活動による慰問などの成果がありました。特に学内ボランティア活動は大きな成果があり、広く市民の方が参加できる公開講座を大学の放課後に課外授業として開催し、一般市民などの生涯学習の推進につなげました。

2 課題

- 1 鯖江市美術展については、4回が経過したが、出品数は年々減少傾向にある。より多くの方が出品できるような方法の検討が必要である。また、イベント等を実施するにあたっては、いかに多くの方にご覧いただくかであり、費用対効果の面もあるが、長期的な視点で文化振興をとらえていく必要がある。
- 2 本市では毎年、各種のスポーツイベントを開催しているが、それらが市民のニーズに対応しているか、あるいは市民にとって「スポーツに親しむきっかけづくり」になっているか、今後、市民の潜在需要の的確な把握と、より一層の行政、各種スポーツ団体間の連携を図り、地域に浸透した全市的なスポーツ振興の推進が重要な課題である。
- 3 文化の館内に学校図書館支援センターを設置し、子どもの読書活動の支援を行っているが、事業の定着や推進のためには各小中学校の理解と連携強化が必要である。また、学校図書ボランティア等の人材確保も重要である。
- 4 勤労青少年ホームの昼間の時間帯における施設の有効利用として、青年会議所・青年団等の各種団体および企業等に働きかけ、知識の習得と福利厚生の場として役立てる利用を模索する。

3 重点的に進める項目の取組結果

<取組項目>		<取組結果>
1	<p>■ 施設の計画的整備および美化愛護推進事業の実施</p> <p>①小中学校や幼稚園をはじめ社会教育・スポーツ施設の整備や改修、維持補修を計画的に行うとともに適切な管理による施設の長寿化を図ります。</p> <p>②学校（児童生徒を含む）と地域ボランティア、保護者が協働して、学校や幼稚園の軽微な修繕や環境保全活動を実施し、学校等の美化や環境改善に努めます。</p> <p>①◆小中学校の耐震化率 44棟/60棟 73.3% ◆豊小学校校舎改築による耐震化（新南校舎建設）</p> <p>②◆全小中学校、幼稚園で美化愛護推進事業 5回</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>①豊小学校校舎改築工事（新南校舎）や適切な施設の管理、維持補修に努めたほか、排水路の泥上げ等も実施し教育環境の向上を図りました。</p> <p>②地域のボランティア、保護者、学校が協働し、小中学校や幼稚園の軽微な修繕等を実施し、施設や環境の美化愛護に努めました。</p> <p>①◆小中学校の耐震化率 44棟/60棟 73.3% (平成22年度 43棟/60棟 71.7%) ◆豊小学校南校舎の改築完成</p> <p>②◆美化愛護活動の年間回数 小学校 総数(12校) 120回 平均10.0回 中学校 総数(3校) 25回 平均 8.3回 幼稚園 総数(6園) 49回 平均 8.2回</p>
2	<p>■ 小中学校における基礎学力の定着と向上</p> <p>①基礎学力の定着と応用力を養うために、児童の学習到達度を適切に把握し、指導の改善工夫等を行い、一層の学力向上を目指します。</p> <p>②地域の歴史や文化を学ぶとともに、小学校では地場産業製造体験や施設見学、中学校では職場体験やデザイン実習をとおして、本市産業の理解を深め職業観を育てる活動に取り組みます。</p> <p>③学校図書館の活性化に努め、子ども読書の推進を図ります。</p> <p>①◆自主制作による市確認テストの実施 2回 ②◆眼鏡、漆器、繊維の製作体験の実施 全小学校の1学年の全児童を対象に実施 ◆眼鏡のデザイン実習の実施 全中学校の1学年の全生徒を対象に実施</p> <p>③◆学校図書館の活性化 小学校に毎月10日間、中学校に7日間、 学校図書館支援員を配置 図書の貸出し冊数 1人平均 24冊</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>①市独自の確認テストを実施し、基礎学力の定着と活用力の向上を図り、また、教員が工夫し指導に当たるなど指導力の向上に努めました。また、外国人講師を派遣して、外国語活動の充実に努めました。</p> <p>②体験学習を通じて、鯖江市の地場産業に対する理解や関心を深めるとともに、総合的な学習の時間などを利用して地域の歴史や文化について理解を深めました。</p> <p>③学校図書に充実に努めるとともに、学校図書館支援員を配置して図書館の活用促進に努めました。</p> <p>①◆自主制作による市確認テストの実施 2回/年 ②◆眼鏡、漆器、繊維の製作体験の実施 全小学校のいずれか1学年の全児童779人が参加 ◆眼鏡のデザイン実習の実施 鯖江中学校2年生・中央中学校2年生 東陽中学校1年生647人が参加</p> <p>③◆学校図書館の活性化 小学校に毎月10日間、中学校に7日間、 学校図書館支援員を配置 図書の貸出し冊数 1人平均 28冊</p>
3	<p>■ 食育の推進</p> <p>子どもたちの健全な心身の成長のため、食育を教育の基盤として位置づけ、その推進に努めます。</p> <p>①規則正しい食生活は、健康な生活の基本であることを児童生徒、保護者等への理解を深め、朝食摂取率の向上を目指します。</p> <p>②食の安全安心の確保と農業への理解を深め、生産に携わる人や食材への感謝の念を育むため、地域との連携により学校給食畑を全小学校に設置し、活用を図りながら地場産野菜等の使用率の向上を目指します。</p> <p>①◆朝食摂取率 100% ②◆地場産食材使用率 35% ◆地場産給食の日 全小中学校 2回実施</p>	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>①規則正しい食生活は、健康な身体と心を育む基盤であるところから、児童生徒や保護者の理解を深めるとともに、朝食の摂取率の向上に努めました。</p> <p>②全ての学校に学校給食畑ができ、地域と連携しての野菜等の栽培を通して農業や食材の理解を深め、併せて地場産食材の使用率向上に努めました。しかし、天候不順等の影響で地場産野菜の収穫量が減少し、使用率が目標数値にいたりませんでした。</p> <p>①◆朝食摂取率 98.6% ②◆地場産食材使用率 23.9% ◆地場産給食の日 全小中学校2回実施</p>

<取組項目>		<取組結果>
4	<p>■ 幼児教育の充実 小学校への円滑な移行を図るため、幼稚園と小学校の交流事業の充実努めるとともに、地域に開かれた園として子育て支援活動に取り組みます。</p> <p>◆ 幼稚園と小学校の交流事業 各園 8回 ◆ 園開放事業「遊びにおいて」の実施 各園12回</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>園児の小学校への円滑な移行を図るために、幼稚園と小学校との交流事業の拡充に努めるとともに、地域に開かれた園として「園開放事業」を実施し、子育て支援に努めました。</p> <p>◆ 幼稚園と小学校の交流事業 各園14回 ◆ 園開放事業「遊びにおいて」の実施 各園14回</p>
5	<p>■ 地域の教育力の向上</p> <p>①地域住民が組織的、主体的に地域の小学生を対象に地域の公民館等で合宿通学事業を行い、地域住民と子どもたちが交流しふれあうことにより、地域内での意識の醸成や地域の教育力の向上を図ります。</p> <p>②生涯学習人材バンク制度において、様々な知識や技術・特技・経験を身に付けた地域人材の登録を充実し、生涯学習講師・指導者・スタッフとして、また生涯学習のまちづくりの推進者として活躍していただくなど、この制度を有効に活用し、生涯学習の推進を図ります。</p> <p>①◆ 公民館合宿通学事業の開催 10回 ◆ 公民館合宿通学事業の地区実行委員会の設置 6地区 ◆ 公民館合宿通学の参加児童数 380人 ②◆ 地域人材バンク通算登録数 90人 10団体</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>①地域の教育力向上を図るため、地域住民が公民館合宿通学事業実施のための実行委員会を組織し、全10地区で実施しました。実行委員会は、地域の特性や実情にあった事業内容を企画し、事業の準備から運営までを行い、地域の小学生を対象に地域の公民館等で実施しました。またこの事業には1,102人の地域の皆様方がボランティアとして協力参加いただき、地域住民と子どもたちが交流し、ふれあいながら地域の教育力向上を図りました。</p> <p>②地域の人材を活用した生涯学習の推進を図るため、生涯学習人材バンクの登録を推進しました。登録の推進に当たっては、スポーツ課、高年大学、勤労青少年ホームとも連携し幅広い人材の登録に努めました。</p> <p>①◆ 公民館合宿通学事業の開催 10回 ◆ 公民館合宿通学事業の地区実行委員会の設置 10地区 ◆ 公民館合宿通学の参加児童数 528人 ②◆ 地域人材バンク通算登録数 101人 7団体</p>
6	<p>■ 家庭の教育力の向上</p> <p>次世代を担う青少年を健やかに育てる基盤である家庭が「憩いの場、教育の場」となるよう、家族でふれあいの持てる機会を増やすよう社会全体で支援し家庭の教育力の向上を図ります。</p> <p>◆ 家族ふれあいデー参加店舗数 15店舗</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>家族のふれあい機会を推進するため、子ども同伴で利用した場合特典をつける家族ふれあい協賛店舗を増やした。また、協賛店舗の一覧表を児童の保護者に配布するとともに、市ホームページへの掲載、各地区公民館への配備など広く事業を周知し協賛店舗の利用啓発に努め、家族でふれあいの持てる機会を増やすよう社会全体で支援し家庭の教育力の向上を図りました。</p> <p>◆ 家族ふれあいデー参加店舗数 15店舗</p>

<取組項目> □ □		<取組結果>	
7	<p>■ 文化財の調査、保存、啓発の推進</p> <p>①古墳群をはじめとする貴重な文化遺産を幅広く調査し保存の処置を講ずるとともに、優れた伝統芸能や技術を継承する市民・団体の文化財指定も進め、文化財を後世に引き継いでいくための事業を推進します。</p> <p>②地域における歴史や文化を学ぶことができる場、憩いと安らぎの場として整備された史跡王山古墳群や指定文化財について、市民がさらに理解を深め、その保存と活用について身近に考えることができるような事業を開催します。</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>①貴重な文化遺産を幅広く調査し、保存・継承の措置を講じるために、指定・登録候補物件11件について現地調査を実施しました。また、今北山・磯部・弁財天古墳群発掘調査においては、弥生時代後期に遡る北陸最古・県内初の高地性環壕集落が発見され、大きな注目を集めました。</p> <p>②地域の歴史・文化および文化財について理解を深め、保存・活用について考える機会を創出するために、音楽イベント1回・博物館企画展示1回・講演会2回・学習会16回・見学会4回を実施しました。特に、間部詮勝プロジェクトについては毎回多数の参加者を得て、次年度以降につながる成果が得られました。</p>	
	<p>①◆ 国・県・市指定および登録文化財数の増加 10箇所</p> <p>②◆ 各イベントでの目標参加者数 1,300人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちかど歴史浪漫コンサート ・古墳についての企画展示 ・間部詮勝プロジェクト講演会(2回) ・間部詮勝プロジェクト学習会(16回) 	<p>①◆ 国・県・市指定および登録文化財数の増加 (国登録3件、市指定8件) 11箇所</p> <p>②◆ 各イベントでの目標参加者数 1,850人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちかど歴史浪漫コンサート 300人 ・古墳についての企画展示 470人 (企画展含む) ・間部詮勝プロジェクト講演会(2回) 170人 ・間部詮勝プロジェクト学習会(16回) 480人 ・古墳見学会、説明会(4回) 430人 	
8	<p>■ 文化活動への参加と文化に触れる機会の提供</p> <p>登録博物館として登録されたまなべの館を広く活用して、市民が、直接文化芸術に触れて、鑑賞・参加・創造することができる機会を提供するとともに、子どもたちが伝統文化に触れる機会の充実を図り、市民の文化意識の高揚と郷土に対する愛着心の醸成に努めます。</p>	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>「登録博物館 まなべの館」を広くPRするために、企画展の充実を図り、本年度は5回開催しました。また、子どもたちが、伝統文化を直接体験したり、触れ合うことができるように、「まなべDEワクワクアートフェスタ」や「子ども文楽交流」を継続して開催しました。市民参加型演劇は、昨年に引き続き第2弾として「石田縞」がテーマになっている『遅咲きの梅』を上演し、鯖江の産業と文化をあわせて情報発信しました。</p>	
	<p>◆まなべの館企画展開催事業 来場者数 5,000人</p> <p>◆子どもたちを対象にした芸術文化体験事業 参加者数 200人</p> <p>◆「子ども文楽」を通した小学校間の交流促進 交流事業 1回</p> <p>◆市民参加型演劇「遅咲きの梅」公演 入場者数 600人</p> <p>◆市美術展の開催 出品数 500点 来場者数 16,500人 アートスタッフボランティア 180人</p> <p>◆ふるさとさばえ検定の実施 受験者数 100人</p>	<p>◆まなべの館企画展開催事業(5回) 来場者数 7,700人</p> <p>◆子どもたちを対象にした芸術文化体験事業 まなべDEワクワク！！アートフェスタの開催 参加者数 350人</p> <p>◆「子ども文楽」を通した小学校間の交流促進 交流事業 1回 いぶき野小学校 60名 立待小学校 600名</p> <p>◆市民参加型演劇「遅咲きの梅」公演 入場者数 600人</p> <p>◆市美術展の開催 出品数 450点 来場者数 18,514人 アートスタッフボランティア 180人</p> <p>◆ふるさとさばえ検定の実施 受験者数 73人</p>	

<取組項目>		<取組結果>
9	<p>■ 青少年がスポーツに親しむ環境づくりの推進 青少年の心身の健全な発育・発達を願い、生涯を通してスポーツに親しむことができるよう、地域住民が自ら運営する総合型地域スポーツクラブの活動を支援するとともに、スポーツクラブ相互の連携・協力を強化するための体制の構築に努めます。また、スポーツ少年団への育成支援により、一層の加入促進を目指します。</p> <p>◆ スポーツクラブ会員数 2,050人 ◆ スポーツ少年団への加入率 23.5%</p>	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>本年度も昨年度に引き続き、生涯スポーツ推進事業や総合型地域スポーツクラブ育成事業などの各種振興事業を通して、市民各層へのスポーツ参加を図り、体力向上と健康増進を図りました。スポーツ少年団の加入率は、目標達成には至りませんが、スポーツクラブ会員数については、目標を上回りました。</p> <p>◆ スポーツクラブ会員数 2,077人 ◆ スポーツ少年団への加入率 21.5%</p>
10	<p>■ 市民各層におけるスポーツ習慣の定着と市全体の生涯健康および生涯スポーツ社会の推進 中高年齢者層および児童が年齢・体力に合わせた日常的なスポーツ習慣を身につけることにより、中高年齢層者にはメタボリックシンドロームや成人病を、児童には体力低下の防止に努めます。また、各年齢層における生涯健康と生涯スポーツを目指していくために、地域スポーツクラブや体育指導委員と連携し、市内の老人団体および小学校等へニュースポーツの普及を図ります。</p> <p>◆ 小学校・老人団体等へスポーツ出前講座 15回 600人 ◆ 一般成人対象ニュースポーツ教室 20回 500人</p>	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>「広報さばえ」や市のHPなどを通じて広く市民の皆さんにPRを行ない、参加募集を行ないました。特に本年より中高年齢層と小学校児童へのニュースポーツの普及に力を入れ、一般成人対象も含めた各年齢層に対してスポーツを通じた生涯健康の増進を図りました。小学校・老人団体等へのスポーツ出前講座および一般成人対象のニュースポーツ教室とも、概ね目標数値が達成されました。</p> <p>◆ 小学校・老人団体等へスポーツ出前講座 16回 611人 ◆ 一般成人対象ニュースポーツ教室 22回 445人</p>
11	<p>■ 文化の館における市民との協働事業の開催および学校図書館支援センター事業の推進 ①最先端の研究や深い思索を行っている講師を招き、「ライブラリーカフェ」や、地元の演奏家などを招いて「カフェコンサート」を開催します。また、これらを「市民と友の会と大学と図書館との協働」という全国的にも例を見ない手法で実施し、市民の文化の拠点とします。 ②「学校図書館支援センター」を設置し、対象年齢別に「ブックトーク：小中学校対象」、「図書館司書の日：小中学校対象」、「こどものつどい：3歳児から10歳児対象」、「本との素敵な出会い：保育所、幼稚園の年長児対象」、「あかちゃんと絵本のひろば：0歳児と保護者対象」などの事業を実施することにより、こどもの読書活動の支援を推進します。</p> <p>①◆ 「ライブラリーカフェ」 12回 400人 ◆ 「カフェコンサート」 3回 200人 ②◆ こどもの読書支援イベントの実施 ・「ブックトーク」 延 12小・中学校 1,300人 ・「こどものつどい」 42回(毎週土曜日) 500人 ・「本との素敵な出会い」 22園 600人 ・「あかちゃんと絵本のひろば」 12回 120組 ・「図書館司書の日」の実施 240回訪問</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>① 最先端の研究や深い思索を行っている講師による「ライブラリーカフェ」と、地元の演奏家による「カフェコンサート」を開催しました。また、これらを「市民と友の会と大学と図書館との協働」という全国的にも例を見ない手法で実施しました。「ライブラリーカフェ」においては、事業開始から7年目で通算80回を超え、毎回、異なる参加者もあるなど活況を呈しており、時代に即応したテーマ選びの成果と思われまます。 ②対象年齢別に、「ブックトーク：小学校対象」、「図書館司書の日：小中学校対象」、「こどものつどい：3歳児から10歳児対象」、「本との素敵な出会い：保育所、幼稚園の年長児対象」、「あかちゃんと絵本のひろば：0歳児と保護者対象」などの事業により、こどもの読書活動の支援を推進しました。特に、学校図書館支援センターの設置により学校図書館支援の目的が明確になり、学校との連携も円滑化し、団体貸出の要望も定着してきています。</p> <p>①◆ 「ライブラリーカフェ」 12回開催 参加者573人 ◆ 「カフェコンサート」 8回開催 参加者860人 ②◆ こどもの読書支援イベントの実施 ・「ブックトーク」 13小中学校、55クラスで実施 参加者1,607人 ・「こどものつどい」 50回開催 参加者780人 (内子ども490人) ・「本との素敵な出会い」 26園で開催 参加者650人 ・「あかちゃんと絵本のひろば」 12回開催 参加者150組 ・「図書館司書の日」の実施 220回訪問 (内小学校170回、中学校50回)</p>

<取組項目>		<取組結果>
12	<p>■ 勤労青少年ホームの活性化 施設の利用対象者拡大に伴い、ニーズに応じた講座の開講や昼間の時間帯における施設の有効利用を図り、活性化に努めます。</p> <p>◆ 広報による認知度アップとPR・昼間の時間帯における利用促進 利用回数 1,200回 利用者数 14,500人</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>施設の利用対象者拡大を行ない、ニーズに応じた講座の開講や昼間の時間帯における施設の有効利用を図り、活性化に努めました。</p> <p>◆ 広報による認知度アップとPR・昼間の時間帯における利用促進 利用回数 1,200回 利用者数 17,300人</p>
13	<p>■ 高年大学の活性化</p> <p>①健康長寿および社会貢献（社会参加）を目的として、引き続きカリキュラムに反映させます。</p> <p>②大学の活動を地域の諸活動とつなぎネットワークとして組み込むため、高年大学まちなか授業「市民公開講座」を開催します。</p> <p>③学内で社会貢献（社会参加）について検討し、市の生涯学習人材バンク登録を推進し具体的な活動につなげます。また、受講生による学内のボランティア活動を推進します。</p> <p>①◆ 健康・体育関連授業 45回 1,500人 ◆ 社会貢献関連授業 18回 600人 ②◆ 公開講座開催 5回 400人 ③◆ 社会貢献活動 12回</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>①健康長寿および社会貢献（社会参加）を目的として、カリキュラムに反映させ、徐々に浸透しています。</p> <p>②大学の活動を地域の諸活動とつなぎネットワークとして組み込むため、高年大学まちなか授業「市民公開講座」を開催しました。合わせて高年大学学舎で課外授業「市民公開講座」も開催し、多くの受講生や一般市民の参加を得られました。</p> <p>③学内で社会貢献（社会参加）について検討し、市の生涯学習人材バンク登録を推進したが、具体的な活動にまではつなげられなかった。また、受講生による学内のボランティア活動は、草花ボラ、営繕ボラ、図書ボラ、整理整頓ボラなど活発な活動によって大きな成果を得られました。</p> <p>①◆ 健康・体育関連授業 46回 2,109人 ◆ 社会貢献関連授業 18回 780人 ②◆ 公開講座開催 10回 555人 ③◆ 社会貢献活動 50回</p>